

第1回 沼津市総合計画審議会合同部会 会議の概要

日時：令和元年9月26日(木) 13:55～16:00

場所：沼津市水道部庁舎 3階会議室

資料：次第、資料1～3

1 開会

2 部会長選出

小泉委員が部会長、榊原委員が部会長代理に選任された。

3 沼津市総合計画基本構想（案）について：審議

- ・第1章 総合計画の概要
- ・第2章 まちづくりの基本理念
- ・第3章 沼津が目指す将来都市像
- ・第4章 都市のかたち

●資料2「基本構想（案）」、資料3「基本構想骨子（案）」に対する意見とその対応について」を事務局より一括して説明。

●資料や説明に対する委員からの意見は以下のとおり。

全体構成

委員）第1章に総合計画の概要、2章は、基本理念を打ち出す。3章、4章というのは、より具体的にまちの将来像について、沼津市でどう考えているのかということが徐々にテーマ毎に示されているので、構成に関して違和感はない。

第1章

委員）2「総合計画の性格と特徴について」だが、(3)、(4)は、少し内容に踏み込んでいる感があるが、今回の第5次総合計画の特徴か、一般的な計画の特徴か。

事務局）今回の第5次総合計画についての性格と特徴について記載しており、(3)、(4)の部分を意識して策定していきたいと考えている。

委員）2(4)「少子高齢化、人口減少社会に対応する計画」で、「それぞれの絆を強め」とあるが、行政と市民と事業所と、相互の絆を強める意味合いであれば、「それぞれ」を「お互いの」にしたほうが良い。また、「絆」という言葉は、必ずしもプラスの面だけで読まれるとは限らないので、「連携を強める」などという表現にしたほうが良い。

第2章

委員）「動き出す」「創り出す」という言葉はこの10年間の決意みたいなものが伺えて、非常にこの基本理念は良いと思う。

委員）「人・まち・自然が調和し、躍動するまち」について、「人」と「まち」が「自然」

と調和するのか、三並びでいいのか、議論が必要かと思う。

事務局) この10年で大きくまちが動き出すが、ハードのまちづくりだけではなく、人や自然も入れ込んだ、まちづくりというものを考えている。そういう意味を込め、「人と人」、「人とまち」、「人と自然」、それぞれが調和するというイメージを表現した。

委員) 「まちづくりの基本理念」の図中の説明書きの中で、「・・・まちを実現する」まで言ってしまうと、将来像になってしまうので、「挑戦していく」などで止めた方が良い。

委員) 「心も体も元気で健康」の中で、「子どもから高齢者まで誰もが元気にいきいきと活動できる居場所づくり」と修正したのは、年代世代を問わず皆さんがという表現で、広がりが出て非常に良い。加えて、男性だけではなく女性も、また、最近の性別に関していうと、いわゆる「LGBT」、性的マイノリティーの人達の人権も大事であり、新しい流れを生かすと言う意味で「性別を問わず、性別に関わらず」という表現を一言前に入れて頂きたい。

第3章

委員) 「人・まち・自然が調和するまちとは」の中に「人に優しい、自然豊かな都市空間を楽しめるまち」とあるが、第4章「都市のかたち」の中での、「環境調和ゾーン」・「自然保全ゾーン」のことだと思うが、ゾーンがこれだけでいいのかと思う。

委員) 「誇り高い沼津」というフレーズについて、沼津の中だけだとこの言葉でいいと思うが、他の市町から見ると、少し言い過ぎかと感じた。

事務局) この言葉については、御用邸がある、自然が美しい、景観が良いだけではなく、他にも良いところがたくさんあるということを市民の皆さんにも知って欲しいし、そのような沼津市の市民として誇りを持ちましょう、という思いをここに込めている。

委員) 「誇りと繋がり」ということについて、要は自分を信じるという自己肯定だと思う。沼津市民が「沼津行けるぞ」と自信を持って取り組むということ。それを市民に向かって心を動かす言葉で言わなければいけない。

委員) 「多様性を認め合い、尊重し合える」という言葉が入ることで、かつての自信を取り戻す自己肯定だけでなく、他者を承認することとのバランスがとれる。今後、新たな考えも踏まえ、より質の高いまちを目指す目標として「誇り高い」は悪くないと感じる。

委員) 「躍動するまちとは」のなかに、「本市にしかできない…」とあるが、表現が少し気になる。

事務局) この10年間は、鉄道高架など、都市空間を再編するまたとない機会であり、そのような意味で、本市にしかできないという強調した表現にした。

委員) 「躍動するまちとは」のなかに、「県東部地域を牽引する」とあるが、第4次総合計画の時も使っており、ただ踏襲して書かれているというだけでは、心配な気がする。

事務局) 沼津市が中心となって行っていることには、観光や都市機能、業務機能の集積、広域の交通網の整備などがある。また、東部地域で働く場を創出していくような部分でも牽引する役割があると感じている。

委員) 将来都市像の中においては、交流人口についても大切だと思うので、そのようなフレーズも入れて頂きたい。

事務局) 検討する。

第4章

委員) 第4章の「都市のかたち」という題名に少し違和感がある。

事務局) 「都市のかたち」という言葉は、第4次総合計画を引き継いだが、都市計画マスタープランなどでは「将来都市構造」と表現しているので、表現は検討する。

委員) 「都市のかたち」のなかで、戸田地区は地域拠点になっているが、どうだろうか。景観が優れた三浦地区も含めて、交流拠点としての位置付けにしてはどうか。

事務局) 都市マスタープランに合わせて作成した。意見を伺ったので、どのような位置づけがよいか検討する。

委員) 都市計画マスタープランの考え方によるゾーン名称等は分かるが、総合計画は農村部等も含めた市全体を考えるものなので、戸田・三浦周辺を交流レクリエーションゾーンなどの特色付けができるかは、検討願いたい。日常生活ゾーンという言葉も少し違和感を覚える。

事務局) 都市計画マスタープランを意識した案であったが、検討する。

委員) 文章の中で、「コミュニティが崩れる…」とあるが、表現としてなじまないのも、「コミュニティが活力を失うことなく」とした方が良い。また、「～享受できる、持続可能なまち～」を「多様性に富んだ、持続可能なまちづくり」にすると、SDGsの考え方にも繋がってくると思う。

4 今後の予定

資料1 「沼津市総合計画審議会合同部会の進め方等について」を事務局より説明。

5 閉会